

クラス NO	510	担当教員	曲田 浩和
テーマ	身近な歴史を考える		

ゼミ概要

歴史は、人々がどのような社会のなかで生きてきたのかを考えることが重要です。そのためには、政治・経済・文化などのなかで総合的に捉える必要もありますが、身近な素材をもとに歴史を考えることも必要です。たとえば、洗濯機と洗剤、眼鏡、ゼムクリップ・鉛筆、カタログ、などです。このような身近なものがどのように生まれてきたのか、どのような歴史的変遷をたどってきたのか、などについて考えてみたいと思います。モノが変われば生活が変わる。生活が変われば意識が変わる。意識が変われば社会が変わる。ひとつのモノの変化が大きく歴史を変えることにつながることもあります。「変化をみる」というところにゼミのポイントを置きたいと思っています。

さらに、地域に焦点を当てて歴史を考えます。知多半島のものづくりや、知多半島の観光などを取り上げ、知多半島を中心に環伊勢湾を捉えてみたいと思っています。

いずれにしても、歴史は、なぜ変化したのか。どのように変化したかについて考える学問です。原始時代から現代まで、さまざまな変化によって、時代が作られています。日本史を意識しながら、身近なモノや地域について考えてみたいと思っています。

フィールドワークや地域史調査などの活動も積極的に行っていきます。4月の天気の良い日に、大学のある奥田の昔探しを行います。江戸時代の北奥田村はどのような場所だったのでしょうか。まずは身近な場所からはじめてみましょう。

関連科目

日本史 日本経済史 地域経済論 日本経済論

使用テキスト

柏木博 『日用品の文化誌』岩波新書 1999 年

担当教員からのメッセージ

歴史だけでなく現在の事柄にも関心を持ち、常に敏感でいてください。毎日、新聞を読むことを心掛けてください。